

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0712
施設名	敬愛きたの保育園
施設所在地	王子市北野町545 - 3きたのタウンビル3F
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽（2歳児）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
・0歳児の頃から手作り楽器で遊んだり、活動の中で音楽に触れたりすることが多く、音楽が聞こえてくると体全身を使い表現していた。また音楽が聞こえたとお友達の前に立って歌ったり手遊びを行うなど、楽器や、音に興味を持っている姿が見られたので、さらに音楽に探求できるようにするため。

2. 活動スケジュール

- ・4月 5月 6月 音に合わせて全身を使い自由に動いて表現を楽しむ。
- 7月 8月 マラカスを作って遊ぶ
- 9月 10月 11月 いろいろな楽器に触れ音の違いを知る。
- ・12月 1月 2月 いろいろな曲に合わせてリズムを感じる。幼児組の音楽や表現活動を見学し、子ども同士で発表会ごっこを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- （活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
- ・ピアノ・オルガン・スピーカー
 - ・楽器「なかよしリズムスタンドタイプ」（タンブリン、鈴、カスタネット、エッグマラカス等）
 - ・手作りマラカス

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・すず、タンブリン、カスタネット、カバサ、マラカスなど、いろいろな種類の小物楽器を使い音の違いに気付く。
- ・手作りマラカスで遊ぶ。
- ・お友だちと一緒に楽器を使って遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

音楽に合わせて楽器を鳴らすことを楽しんでいたのも、お部屋に楽器を置き、いつでも使えるよう環境設定をすることで音楽を楽しむ姿が見られた。自由に触れたことで、振ったり叩いたり、自由に探求をしていた。「これはどうやってつかうの?」や「おとがちがうね」と楽器の使い方や種類、音色の違いに興味関心が向いた。保育者も音と一緒に楽しむことを共感し楽しむことで、普段言葉があまりでない子どもも、自ら楽器を選び鳴らしたり、子ども同士で「これつかいたい」「(おと)きれいだね」とやりとりをしながら全身で音楽を感じて楽しんでいた。幼児組の音楽や表現活動の見学をすると「やりたい」「かっこいい」と憧れる姿が見られた。好きな楽器を選んでお友達の前立って、お客さんと演奏者になり、発表ごっこに発展した。さりげなく音楽をかけると、静かに聞こうとしたり「がんばれ」と声を掛け応援したりして子ども同士のやりとりをしたり、相手を思いやる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音楽を通して豊かな感性と表現力、子ども同士役割を決めて発表会ごっこに発展するなど社会性が育まれ音への興味関心がさらに深まった。また、様々な楽器に自ら関り、主体的に遊びが発展していくことが分かった。そこから子どもが自分たちで楽器を作ってみたいなど子どもからでた言葉で環境を整えていくことで主体的な保育とは何かを知り、取り組むことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0712
施設名	敬愛きたの保育園
施設所在地	王子市北野町545 - 3きたのタウンビル3F
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然「光」（3歳児）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
夕方の保育の時間、ロッカーに西日が当たり影が出来ていることに気づいき影で遊ぶ姿が見られた。戸外でも日の光や影で遊ぶ姿が見られた為、光の探求を深めたいと思いテーマを光に設定した。

2. 活動スケジュール

11月 西日を使った影遊びを楽しむ。
12月 ライトニングテーブルを使用して、カラーブロックが光る様子を楽しむ。
1月 カラーブロックを戸外で使用して、自然光の光で影遊びを楽しむ。お部屋に木枠に白い布をかけたものを用意し、後ろから光を当てる。自分たちで作成した生活素材を映し出し影遊びを楽しむ。
2月 チャーリー西村さんのサイエンスショーに参加し光の不思議を感じる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・ カラーブロック ・ チャーリー西村サイエンスショー
・ ライトニングテーブル ・ 影遊び用ライト ・ セロハンテープ
・ 白い布
・ 木枠
・ 生活素材

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ライトニングテーブルとカラーブロックを用意し、自由にカラーブロックや積み木などを置くことでキラキラ光る様子を楽しむ。
- ・自然光（太陽の光）を利用してカラーブロックを組み立て好きな形を作って光る様子を楽しむ。
- ・お部屋に白い布をかけた木枠と影遊び用ライトを用意する。生活素材を使って映し出したい形を一人ひとりが作る。作った物を布と光を使って映し出し影遊びをする。
- ・チャーリー西村さんのサイエンスショーに参加し光の不思議を感じる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

西日に気がついたところから、お部屋にライトニングテーブルを置いておくと光によって影が出来ることに気がついた。そこにカラーブロックをそっと用意した。カラーブロックをテーブルに置くと「いろいろがついてる!」「こっちはきいろだ」と色のついた影が出来ることに気がついた。ライトニングだけではなく、自然の中にも太陽光があることを知らせるために、戸外にカラーブロックを持って行った。地面に色のついた影・形が出来ることを楽しみながら人にも影があることに気がつく姿があった。「これがかげになるの?」という疑問が生まれたので、物にも影が出来るのかチャレンジできるように生活素材を使って形を作って影遊びをすることで物も影ができることを発見した。自分に被ってしまうと上手く影が出来ないことにも気がついていて。保育者が一緒に子どもの疑問に共感し、いろいろな発見ができるように環境を整え子ども同士でやり取りができるようにした。

サイエンスショーに参加し、新しい光の遊び方、不思議を知り「ひかりがにじいろだ」などいろいろな遊び方を知ることができさらに光に対する探求が深まった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

光の活動を通して、大人が教えるのではなく、光や影の発見を子どもたちが試しながら自ら気づいていく場面が多く見られた。保育者が自由に選べる環境をさりげなく整えたことで、子どもたちは自分のやりたいことをのびのびと試して遊んでいた。活動は保育者が共に「本当だね!」「楽しいね!」と気持ちを共感することでお子さまと一緒にワクワクしながら光の探求が深まった。また、子どもなりの表現を受け止め、これからも様々な探求活動を深めるため環境を大切に整えていきたいと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0712
施設名	敬愛きたの保育園
施設所在地	王子市北野町545 - 3きたのタウンビル3F
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽（4・5歳児）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

日頃からすず、タンブリン、カスタネット、鍵盤ハーモニカに親しみ、音楽が流れると歌ったり踊ったり楽しんでいた。鍵盤ハーモニカなどで子ども同士で知っている歌を弾き楽しむ姿が見られていた。毎年年長組では小太鼓や鍵盤ハーモニカで発表をおこなっていたが、その他にもいろいろな楽器があることに気が付き、どんな音でどんな演奏の仕方なのか興味を持っていたので音の探求を深めるため「音楽」をテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

4月～10月鍵盤ハーモニカ、小太鼓、すず、カスタネット、タンブリン、トライアングル等を使って音楽遊びを楽しむ。

11月～シンバル、大太鼓、いろいろな楽器を自由に触れられる環境を整え遊ぶ。

・園内の行事やプレイデイのドリル演奏、表現発表等でカバサ、シンバル、グロッケン、オルガン、ドラムセット、マリンバ、大太鼓等いろいろな楽器を選んで演奏する。

1月 もものつどい（表現発表会）で自分の選んだ楽器を使ってこどもオーケストラ「くるみわり人形」を演奏する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ・オルガン | ・カスタネット |
| ・ドラムセット | ・トライアングルホルダー |
| ・なかよしリズムスタンドタイプ | ・グロッケン ・サイネージ |

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

様々な楽器に触れられる環境で自由に音の探求ができるようにした。
オーケストラを演奏している動画を見た。「このがっきはなんていうがっき?」「これやってみたい」という声があがった。楽器を準備し、自分たちで演奏したい楽器を選べるようにし、音楽への探求をさらに深めることができた。保育者が一緒に楽器を演奏することで4歳児・5歳児一緒にこどもオーケストラの「くるみ割り人形」の発表につながった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・初めて見る楽器には「どうやっておとをだすの?」「どうやってもつの?」と興味津々でいろいろな鳴らし方を楽しんでいた。楽器ごとに演奏を楽しむ中で「こっちのがっきたたかせて」「こうやっておとをだすんだよね」と子ども同士でやりとりを楽しみながら教え合う姿が見られた。音楽遊びや楽器演奏に苦手意識を持っていた子どもも「じぶんでえらんだがっきだからたのしい」と自信をもって発表会に参加する様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

いろいろな楽器にふれることで、楽器の音の出し方の違い（叩く、回す、打つ、振る）や音の大きさ小ささ、やさしい、強いなど音の表情にも気が付くことができた。

「いろいろな音が合わさるときれいだね」「いろいろな音がしておもしろいね」

とみんなで音を合わせる面白さを感じることもでき、保育者も一緒になり楽器にふれたり、演奏をしたりして共感することで、楽器演奏に苦手意識があったお子さまも自分の好きなこと、やってみたいことを見つけてのびのびと演奏し、達成感を感じることもできた。楽器や音楽を通して子ども同士でのコミュニケーションや、異年齢でのやり取りがたくさん行われ、人間関係の広がりを感じた。